

バリアフリー改修の増改築等工事を行った場合（令和元年7月以降に工事完了後居住した場合）

「増改築等工事証明書」（全16ページ）の発行にあたり、必要事項を記入します。ローン型のリフォーム例の記載例を参考にご記入ください。

※証明書の様式は全部で16ページありますが、記入・提出するのは      で囲ったページです。

1ページ目

2ページ目

3ページ目

4ページ目

5ページ目

6ページ目

7ページ目

8ページ目

9ページ目

10ページ目

11ページ目

12ページ目

13ページ目

14ページ目

15ページ目

16ページ目

様式の右上のページは記載例のページに対応する ※      提出書類      記入不要  
※該当する箇所に記入の上そのページを提出する。

耐震リフォーム

バリアフリーリフォーム

省エネルギーリフォーム

同居対応リフォーム

長期優良住宅化リフォーム

住宅ローン減税

贈与税の非課税措置

登録免許税の特例措置

不動産取得税の軽減措置

**バリアフリー改修工事を行う場合（ローン型減税）  
（令和元年7月以降に工事完了後居住した場合）**

**記載例**

P.050 の計算例と  
対応しています。

申請者:60歳  
 工事内容:  
 ①LDK及び洋室(収納含む)の床・壁・天井の全面改修(第3号工事)  
 ②浴室・洗面脱衣室の改修及び給排水設備の交換(高齢者等居住改修工事等)  
 ・ 出入り口の幅を拡張する工事  
 ・ 浴室床面積(3.3㎡)を増加させる工事  
 ・ 手すりの設置(80cm)2箇所  
 ・ 開き戸を引き戸に取り替える工事  
 ・ 浴槽またぎ高さを低くする工事  
 ・ 使いやすい水栓金具を取り付ける工事  
 ・ 浴室の段差解消工事  
 ・ 床材を滑りにくくする工事  
 ③解体、仮設、養生等の付帯工事  
 工事費用:10,000,000円(税、経費込)  
 (内高齢者等居住改修工事等の合計額:3,000,000円)  
 介護給付金:35,000円

別表第二

増改築等工事証明書

証明申請者	住所	東京都千代田区〇〇〇
	氏名	リフォーム 太郎
家屋番号及び所在地		東京都千代田区〇〇〇
工事完了年月日		〇〇年〇月〇日

工事を行った住所の建物登記簿に  
記載された家屋番号と所在地を記  
載します。

I. 所得税額の特別控除

1. 償還期間が10年以上の住宅借入金等を利用して増改築等をした場合（住宅借入金等特別税額控除）

(1) 実施した工事の種別 ← 記入不要です。

第1号工事	1 増築 2 改築 3 大規模の修繕 4 大規模の模様替
第2号工事	1 棟の家屋でその構造上区分された数個の部分の部分を独立して住居その他の用途に供することができるもののうちその者が区分所有する部分について行う次のいずれかに該当する修繕又は模様替 1 床の過半の修繕又は模様替 2 階段の過半の修繕又は模様替 3 間仕切壁の過半の修繕又は模様替 4 壁の過半の修繕又は模様替
第3号工事	次のいずれか一室の床又は壁の全部の修繕又は模様替 1 居室 2 調理室 3 浴室 4 便所 5 洗面所 6 納戸 7 玄関 8 廊下
第4号工事 (耐震改修工事)	次の規定又は基準に適合させるための修繕又は模様替 1 建築基準法施行令第3章及び第5章の4の規定 2 地震に対する安全性に係る基準
第5号工事 (バリアフリー改修工事)	高齢者等が自立した日常生活を営むのに必要な構造及び設備の基準に適合させるための次のいずれかに該当する修繕又は模様替 1 通路又は出入口の拡幅 2 階段の勾配の緩和 3 浴室の改良 4 便所の改良 5 手すりの取付 6 床の段差の解消 7 出入口の戸の改良 8 床材の取替
	エネルギーの使用の合理化に著しく資する次のいずれかに該当する修繕若しくは模様替又はエネルギーの使用の合理化に相当程度資する次のいずれかに該当する修繕若しくは模様替 1 全ての居室の全ての窓の断熱性を高める工事 全ての居室の全ての窓の断熱性を相当程度高める工事

住宅ローン減税に該当し  
ない場合には斜線を入  
れます。

ローン型減税の適用を受ける場合「高齢者等居住改修工事等」の欄に記入します。  
 高齢者等居住改修工事等の他に同項目で併用する工事がある場合は該当欄に記入します。

2. 償還期間が5年以上の住宅借入金等を利用して高齢者等居住改修工事等（バリアフリー改修工事）、特定断熱改修工事等若しくは断熱改修工事等（省エネ改修工事）、特定多世帯同居改修工事等又は特定耐久性向上改修工事等を含む増改築等をした場合（特定増改築等住宅借入金等特別税額控除）

(1) 実施した工事の種別

高齢者等居住改修工事等（バリアフリー改修工事：2%控除分）	高齢者等が自立した日常生活を営むのに必要な構造及び設備の基準に適合させるための次のいずれかに該当する増築、改築、修繕又は模様替 ① 通路又は出入口の拡幅 ② 階段の勾配の緩和 ③ 浴室の改良 ④ 便所の改良 ⑤ 手すりの取付 ⑥ 床の段差の解消 ⑦ 出入口の戸の改良 ⑧ 床材の取替								
特定断熱改修工事等（省エネ改修工事：2%控除分）	全ての居室の全ての窓の断熱改修工事を実施した場合	エネルギーの使用の合理化に著しく資する次のいずれかに該当する増築、改築、修繕又は模様替 1 全ての居室の全ての窓の断熱性を高める工事 2 全ての居室の全ての窓の断熱性を相当程度高める工事 3 全ての居室の全ての窓の断熱性を著しく高める工事  上記1から3のいずれかと併せて行う次のいずれかに該当する増築、改築、修繕又は模様替 4 天井等の断熱性を高める工事 5 壁の断熱性を高める工事 6 床等の断熱性を高める工事							
		<table border="1"> <tr> <td>地域区分</td> <td>1 1地域 5 5地域</td> <td>2 2地域 6 6地域</td> <td>3 3地域 7 7地域</td> <td>4 4地域 8 8地域</td> </tr> </table>	地域区分	1 1地域 5 5地域	2 2地域 6 6地域	3 3地域 7 7地域	4 4地域 8 8地域		
		地域区分	1 1地域 5 5地域	2 2地域 6 6地域	3 3地域 7 7地域	4 4地域 8 8地域			
		<table border="1"> <tr> <td>改修工事前の住宅が相当する断熱等性能等級</td> <td>1 等級1</td> <td>2 等級2</td> <td>3 等級3</td> </tr> </table>	改修工事前の住宅が相当する断熱等性能等級	1 等級1	2 等級2	3 等級3			
改修工事前の住宅が相当する断熱等性能等級	1 等級1	2 等級2	3 等級3						
<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">認定低炭素建築物新築等計画に基づく工事の場合</td> <td colspan="2">次に該当する修繕又は模様替 1 窓</td> </tr> <tr> <td colspan="2">上記1と併せて行う次のいずれかに該当する修繕又は模様替 2 天井等 3 壁 4 床等</td> </tr> <tr> <td>低炭素建築物新築等計画の認定主体</td> <td>第 号</td> </tr> <tr> <td>低炭素建築物新築等計画の認定番号</td> <td>年 月 日</td> </tr> </table>	認定低炭素建築物新築等計画に基づく工事の場合	次に該当する修繕又は模様替 1 窓		上記1と併せて行う次のいずれかに該当する修繕又は模様替 2 天井等 3 壁 4 床等		低炭素建築物新築等計画の認定主体	第 号	低炭素建築物新築等計画の認定番号	年 月 日
認定低炭素建築物新築等計画に基づく工事の場合		次に該当する修繕又は模様替 1 窓							
		上記1と併せて行う次のいずれかに該当する修繕又は模様替 2 天井等 3 壁 4 床等							
		低炭素建築物新築等計画の認定主体	第 号						
	低炭素建築物新築等計画の認定番号	年 月 日							
改修工事後の住宅の一定の省エネ性能が証明される場合	住宅性能評価書により証明される場合	エネルギーの使用の合理化に著しく資する次に該当する増築、改築、修繕又は模様替 1 窓の断熱性を高める工事  上記1と併せて行う次のいずれかに該当する増築、改築、修繕又は模様替 2 天井等の断熱性を高める工事 3 壁の断熱性を高める工事 4 床等の断熱性を高める工事							
		<table border="1"> <tr> <td>地域区分</td> <td>1 1地域 4 4地域 7 7地域</td> <td>2 2地域 5 5地域 8 8地域</td> <td>3 3地域 6 6地域</td> </tr> </table>	地域区分	1 1地域 4 4地域 7 7地域	2 2地域 5 5地域 8 8地域	3 3地域 6 6地域			
地域区分	1 1地域 4 4地域 7 7地域	2 2地域 5 5地域 8 8地域	3 3地域 6 6地域						

			改修工事前の住宅が相当する断熱等性能等級	1 等級1    2 等級2    3 等級3					
			改修工事後の住宅の省エネ性能	1 断熱等性能等級4 2 一次エネルギー消費量等級4以上及び断熱等性能等級3					
			住宅性能評価書を交付した登録住宅性能評価機関	名 称					
				登録番号	第	号			
			住宅性能評価書の交付番号	第 号					
			住宅性能評価書の交付年月日	年 月 日					
			増改築による長期優良住宅建築等計画の認定により証明される場合	エネルギーの使用の合理化に著しく資する次に該当する増築、改築、修繕又は模様替 1 窓の断熱性を高める工事					
				上記1と併せて行う次のいずれかに該当する増築、改築、修繕又は模様替 2 天井等の断熱性を高める工事 3 壁の断熱性を高める工事 4 床等の断熱性を高める工事					
				地域区分	1 1地域 4 4地域 7 7地域	2 2地域 5 5地域 8 8地域	3 3地域 6 6地域		
				改修工事前の住宅が相当する断熱等性能等級	1 等級1    2 等級2    3 等級3				
				改修工事後の住宅が相当する省エネ性能	1 断熱等性能等級4 2 一次エネルギー消費量等級4以上及び断熱等性能等級3				
				長期優良住宅建築等計画の認定主体					
				長期優良住宅建築等計画の認定番号	第 号				
				長期優良住宅建築等計画の認定年月日	年 月 日				
断熱改修工事等（省エネ改修工事：1%控除分）	エネルギーの使用の合理化に相当程度資する次のいずれかに該当する増築、改築、修繕又は模様替 1 全ての居室の全ての窓の断熱性を高める工事 2 全ての居室の全ての窓の断熱性を相当程度高める工事 3 全ての居室の全ての窓の断熱性を著しく高める工事								
	上記1から3のいずれかと併せて行う次のいずれかに該当する増築、改築、修繕又は模様替 4 天井等の断熱性を高める工事    5 壁の断熱性を高める工事 6 床等の断熱性を高める工事								
地域区分	1 1地域 5 5地域	2 2地域 6 6地域	3 3地域 7 7地域	4 4地域 8 8地域					

	改修工事前の住宅が相当する断熱等性能等級	1 等級1    2 等級2
	認定低炭素建築物新築等計画に基づく工事の場合	次に該当する修繕又は模様替 1 窓
		上記1と併せて行う次のいずれかに該当する修繕又は模様替 2 天井等    3 壁    4 床等
		低炭素建築物新築等計画の認定主体
		低炭素建築物新築等計画の認定番号
		第      号
		低炭素建築物新築等計画の認定年月日
		年   月   日
特定多世帯同居改修工事等（2%控除分）	他の世帯との同居をするのに必要な設備の数を増加させるための次のいずれかに該当する増築、改築、修繕又は模様替 1 調理室を増設する工事    2 浴室を増設する工事    3 便所を増設する工事 4 玄関を増設する工事	
		調理室の数    浴室の数    便所の数    玄関の数
	改修工事前	
	改修工事後	
特定耐久性向上改修工事等（2%控除分）	特定断熱改修工事等と併せて行う構造の腐食、腐朽及び摩損を防止し、又は維持保全を容易にするための次のいずれかに該当する増築、改築、修繕又は模様替 1 小屋裏の換気工事    2 小屋裏点検口の取付工事 3 外壁の通気構造等工事    4 浴室又は脱衣室の防水工事 5 土台の防腐・防蟻工事    6 外壁の軸組等の防腐・防蟻工事 7 床下の防湿工事    8 床下点検口の取付工事 9 雨どいの取付工事    10 地盤の防蟻工事 11 給水管、給湯管又は排水管の維持管理又は更新の容易化工事	
	第1号工事	1 増築    2 改築    3 大規模の修繕    4 大規模の模様替
	第2号工事	1 棟の家屋でその構造上区分された数個の部分具有独立して住居その他の用途に供することができるもののうちその者が区分所有する部分について行う修繕又は模様替 1 床の過半の修繕又は模様替 2 階段の過半の修繕又は模様替 3 間仕切壁の過半の修繕又は模様替 4 壁の過半の修繕又は模様替
	第3号工事	次のいずれか一室の床又は壁の全部の修繕又は模様替 1 居室    2 調理室    3 浴室    4 便所 5 洗面所    6 納戸    7 玄関    8 廊下
		長期優良住宅建築等計画の認定主体
		長期優良住宅建築等計画の認定番号
		第      号
		長期優良住宅建築等計画の認定年月日
		年   月   日

耐震リフォーム

バリアフリーリフォーム

省エネルギーリフォーム

同居対応リフォーム

長期優良住宅化リフォーム

住宅ローン減税

贈与税の非課税措置

登録免許税の特例措置

不動産取得税の軽減措置

上記と併せて行う第1号工事～第4号工事 (1%控除分)	第1号工事	1 増築    2 改築    3 大規模の修繕    4 大規模の模様替
	第2号工事	1 棟の家屋でその構造上区分された数個の部分具有独立して住居その他の用途に供することができるものうちその者が区分所有する部分について行う修繕又は模様替 1 床の過半の修繕又は模様替 2 階段の過半の修繕又は模様替 3 間仕切壁の過半の修繕又は模様替 4 壁の過半の修繕又は模様替
	第3号工事	次のいずれか一室の床又は壁の全部の修繕又は模様替 ① 居室    ② 調理室    3 浴室    4 便所 5 洗面所    6 納戸    7 玄関    8 廊下
	第4号工事	次の規定又は基準に適合させるための修繕又は模様替 1 建築基準法施行令第3章及び第5章の4の規定 2 地震に対する安全性に係る基準

## (2) 実施した工事の内容

**LDK及び洋室（収納を含む）の床・壁・天井の全面改修**

- ・ LDKの間仕切りを撤去し一部屋にして、キッチンセットを交換した。
- ・ 和室 4.5 畳を洋室に改修し、押入れを収納に改修した。

**浴室・洗面脱衣室の改修及び給排水設備の交換**

- ・ 浴室の出入り口の幅を 60cmから 80cmに広げた。
- ・ 既存の浴槽（またぎの高さ 70cm）をまたぎの高さ 45cmの浴槽に取り替え。
- ・ 浴室床面積（3.3㎡）を増加させた。
- ・ 2バルブの水栓金具をレバーハンドルの水栓金具に取り替えた。
- ・ 浴室に 80cmの手すりを 2箇所取り付け付けた。
- ・ 浴室の出入り口の段差を解消した。
- ・ 浴室（3.3㎡）の出入り口の段差を解消した。
- ・ 洗面室の開き戸を引き戸に取り替えた。
- ・ 浴室の床材を滑りにくくした。

**工事内容の欄**

- 控除の対象となる工事であることがわかるよう具体的に記載します。

(例)

- ・ 工事を行った家屋の部分、工事面積
- ・ 工法
- ・ 高齢者等居住改修工事等の具体的な内容

- 特定断熱改修工事等、断熱改修工事等、特定多世帯同居改修工事等、特定耐久性向上改修工事等又は第1～4号工事を併せて行った場合には、控除の対象となる工事であることがわかるよう具体的に記載します。

(例)

- ・ 第2号工事の場合は、遮音のための性能を向上させるために使用した材料及び施工部位
- ・ 第4号工事の場合は耐震改修工事の内容
- ・ 第6号工事の場合は省エネ改修工事の内容

実際にかかった高齢者等居住改修工事等の額(税込) P.050計算例を参照のこと

## (3) 実施した工事の費用の額等

① 高齢者等居住改修工事等、特定断熱改修工事等又は断熱改修工事等、特定多世帯同居改修工事等、特定耐久性向上改修工事等及び第1号工事～第4号工事に要した費用の額	10,000,000 円
② 高齢者等居住改修工事等の費用の額等 (2%控除分)	
ア 高齢者等居住改修工事等に要した費用の額	3,000,000 円
イ 高齢者等居住改修工事等に係る補助金等の交付の有無	○ 有 無
「有」の場合 交付される補助金等の額	35,000 円
ウ アからイを差し引いた額 (50万円を超える場合)	2,965,000 円
③ 特定断熱改修工事等の費用の額等 (2%控除分)	
ア 特定断熱改修工事等に要した費用の額	円
イ 特定断熱改修工事等に係る補助金等の交付の有無	有 無
「有」の場合 交付される補助金等の額	円
ウ アからイを差し引いた額 (50万円を超える場合)	円
④ 特定多世帯同居改修工事等の費用の額等 (2%控除分)	
ア 特定多世帯同居改修工事等に要した費用の額	円
イ 特定多世帯同居改修工事等に係る補助金等の交付の有無	有 無
「有」の場合 交付される補助金等の額	円
ウ アからイを差し引いた額 (50万円を超える場合)	円
⑤ 特定耐久性向上改修工事等の費用の額等 (2%控除分)	
ア 特定耐久性向上改修工事等に要した費用の額	円
イ 特定耐久性向上改修工事等に係る補助金等の交付の有無	有 無
「有」の場合 交付される補助金等の額	円
ウ アからイを差し引いた額 (50万円を超える場合)	円
⑥ ②ウ、③ウ、④ウ及び⑤ウの合計額	2,965,000 円
⑦ 断熱改修工事等の費用の額等 (1%控除分)	
ア 断熱改修工事等に要した費用の額	円
イ 断熱改修工事等に係る補助金等の交付の有無	有 無
「有」の場合 交付される補助金等の額	円
ウ アからイを差し引いた額 (50万円を超える場合)	円

●上記②のイ 高齢者等居住改修工事等の「補助金等の交付の有無」に○を記載してください。

「有」：高齢者等居住改修工事等を含む住宅の増改築等工事の費用に関し「国」又は「地方公共団体」から交付される補助金又は給付金その他これらに準ずるものの交付の対象となる工事が含まれている場合。

\*「有」の場合には「交付される補助金等の額」の欄に、額を記載します。

「無」：含まれていない場合。

上記の工事が租税特別措置法若しくは租税特別措置法施行令に規定する工事に該当すること又は上記の工事が地方税法若しくは地方税法施行令に規定する工事に該当すること若しくは上記の工事が行われ地方税法附則第15条の9の2に規定する認定長期優良住宅に該当することとなったことを証明します。

証明年月日	〇〇年 〇〇月 〇〇日
-------	-------------

(1) 証明者が建築士事務所に属する建築士の場合

証明を行った方の情報を記載してください。  
(以下の(1)～(4)のいずれかの選択制)

押印は認印でも構いません。

建築士事務所に属する建築士が発行します。

証明を行った建築士	氏名	増改築 一郎		印
	一級建築士、二級建築士又は木造建築士の別	一級建築士		
証明を行った建築士の属する建築士事務所	登録番号	△△-□□□		
	登録を受けた都道府県名 (二級建築士又は木造建築士の場合)			
	名称	株式会社増改築一郎建築士事務所		
	所在地	東京都千代田区□□□		
	一級建築士事務所、二級建築士事務所又は木造建築士事務所の別	一級建築士事務所		
	登録年月日及び登録番号	△△-××××		

(2) 証明者が指定確認検査機関の場合

証明を行った指定確認検査機関	名称				印
	住所				
	指定年月日及び指定番号				
	指定をした者				
調査を行った建築士又は建築基準適合判定資格者	建築士の場合	一級建築士、二級建築士又は木造建築士の別	登録番号		
			登録を受けた都道府県名 (二級建築士又は木造建築士の場合)		
	建築基準適合判定資格者の場合	登録番号			
		登録を受けた地方整備局等名			



## (3) 証明者が登録住宅性能評価機関の場合

証明を行った登録住宅性能評価機関	名 称		印	
	住 所			
	登録年月日及び登録番号			
	登録をした者			
調査を行った建築士又は建築基準適合判定資格者検定合格者	氏 名			
	建築士の場合	一級建築士、二級建築士又は木造建築士の別	登 録 番 号	
			登録を受けた都道府県名 (二級建築士又は木造建築士の場合)	
	建築基準適合判定資格者検定合格者の場合		合格通知日付又は合格証書日付	
合格通知番号又は合格証書番号				

## (4) 証明者が住宅瑕疵担保責任保険法人の場合

証明を行った住宅瑕疵担保責任保険法人	名 称		印	
	住 所			
	指 定 年 月 日			
調査を行った建築士又は建築基準適合判定資格者検定合格者	氏 名			
	建築士の場合	一級建築士、二級建築士又は木造建築士の別	登 録 番 号	
			登録を受けた都道府県名 (二級建築士又は木造建築士の場合)	
	建築基準適合判定資格者検定合格者の場合		合格通知日付又は合格証書日付	
合格通知番号又は合格証書番号				

(用紙 日本産業規格 A4)

